

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	イ	21
問二	相手	21
問三	の立場	22
i	オ	23
ii	ウ	24
iii	ア	25

問四	エ	26
問五	④	26
ア	27	
⑦	27	
ウ	28	

問六	自分	29
のほう	29	
が普通	29	
で正しい	29	

問七			
し	て	聞	航
た	い	い	介
か	た	た	か
ら	時	こ	ら
。	の	と	偏
	つ	で	見
	ら	、	と
	い	自	い
	気	分	う
	持	が	言
	ち	い	葉
	を	じ	の
	思	め	説
	い	ら	明
	出	れ	を

問八	エ	34
問九	イ	35
問十	ウ	36
問十一	わかるか？	37

30
31
32
33

【解説】

1 村山由佳の『雪のなまえ』から出題しました。

いじめが原因で小学校に行けなくなった雪乃が、父とともに長野県に移住し、そこの生活を通じて少しずつ前向きになっていく様子を描いた物語です。

問一 B1 具体化 比較

線①の直後で「父親のまつぐさは好きだが、それによって人を傷つけてしまうことがある」と書かれていることに注目します。父親を正面から否定はできないもの、いくらなんでも無神経なのではないか、という雪乃の気持ちを読み取りましょう。ア「仕方ないこと」、ウ「うらやましく思っている」、エ「傷つけることになる」とわかっていますがそれぞれ誤っています。

問二 B1 具体化

直前の航介の発言で、人と接する時の航介や英理子の良くない点が指摘されています。さらに、それに続く部分で両親にはない雪乃の良さが指摘されています。「雪乃の」「良いところ」を探す、という意識を持って本文にもどりましょう。

問三 A2 関係つけ 知識

それぞれ次のことばが入ります。
 i 直前で航介から自分の心の中をすべてわかったうえでコントロールできているかという内容のことを聞かれた雪乃は余計な説明を加えることなく「よくわかんない」と答えています。したがって、オ「正直に」が入ります。

ii 直後の「ぐいぐい割り込んできたとしたら」に注目します。自分の頭の中なのに他の誰かの考えが入り込んでくるということなので、ウ「勝手に」が入ります。

iii 航介は、心の病気になった人は自分の心を自分でコントロールできなくなったことを周りに隠そうとするもの、ということをお話しています。そのことで治療に取りかかるのがさらに遅れてしまいます。したがって、ア「よけいに」が入ります。

問四 B1 具体化 比較

はつとなつた雪乃が直後で「え、もしかして大輝のお母さんの病気って……」と発言していることに注目します。この発言によって、そこまでの会話で航介が説明していた「自分の頭の中で、自分じゃない誰かの声の色々話しかけてくる」という症状が大輝のお母さんの症状だということに雪乃が気づいたことがわかります。したがって、エが正解となります。ア「原因は、広志や大輝の対応の仕方にあった」、ウ「申し訳ないと思っている」がそれぞれ誤っています。また、イは航介の発言内容であり、雪乃が気づいたことではありません。

問五 A1 知識

④「もてあます」は、漢字を使って「持て余す」と書かれ、「うまく扱いきれなくて処理に困る」という意味です。したがって、アが正解となります。関連して「手に余る」などの慣用句も覚えておきましょう。⑦「身につまされる」は「他人の不幸などが、自分の身に引き比べて同情される」という

意味で、人ごとだと安心していられない、という意味です。したがって、ウが正解となります。

問六 **B1** 具体化

「一段高いところに立」つとは、ここでは心の病気になった人に対して自分の方が良い状態にあるという認識を持つことです。自分が優位に立っているという認識と同じ意味の表現を探すと、——線⑥の四行後に「自分のほうが普通で正しいんだったって思い込んで」という表現が見つかります。

問七 **B2** 理由 推論

この場面で、雪乃が航介の言葉を聞きながら自分自身がいじめにあっていた時のことを思い出しています。当時のつらさを思い出したことが「ずきり」という表現に直接つながっています。「偏見」という言葉に関する航介の説明と「はじめの共通点」「自分がいじめられていた時のつらい気持ちを思い出した」という二点を盛りこんで解答を作成しましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問八 **B1** 関係づけ 比較

学校に行けなくなってしまう雪乃に航介がかけた言葉を答える問題です。航介は、心の病気になってしまった会社を辞めざるを得なかった先輩の話をしています。この話を聞いた雪乃が当時のことを思い出して「もしかして」と思っている

ることに注目しましょう。父は当時のことを後悔して、頑張り過ぎている相手、すなわち雪乃に「それ以上頑張りななくていい」と言おうとしていたのだ、と考えられます。したがって、エが正解となります。ア・イ・ウはいずれも「やらなくてよい」という方向ではなく「何をやるか」という内容を含む方向になっているため、この場面での航介の発言としてはふさわしくありません。

問九 **B1** 理由 比較

——線⑨の三行前で「だから自分だけが辛いなんて思うな、というふうに、父親の言葉は続くのだろうか」と雪乃が考えた直後に航介は「だからね、」と発言しています。雪乃は、自分が思った通りのことを父親が言いそうだと感じて身構えているのです。「身構える」という表現から、その発言内容は雪乃にとって受け取りづらいものであることも意識しておきましょう。したがってイが正解となります。ア「無理をするな」、ウ「みんな平等だ」、エ「それを隠すな」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体化 比較

「そういう思い」は、奥さんを結果的に追い込んでしまったヒロくん（広志）が自分を責めていることや、世話になった先輩のために何もできなかった航介の後悔の気持ちを指しています。したがって、自分で自分の心をコントロールできなくなった人に対して適切な対応をできず、相手がよけいに苦しんでいる様子を見ることについて、航介が「いやだ」と考えていることがわかります。したがって、ウが正解となります。

ます。ア「もう一度頑張る気持ちを起こさせてあげられない」、エ「代わりに自分が頑張らなければならないと感じる」がそれぞれ誤っています。また、イ「頑張るのをやめるように言う」は「航介がいやだと感じていること」の内容としてはふさわしくありません。

問十一 **B1** 関係つけ

ぬけている文をもとにもどす問題です。最初にぬけている文をよく読んで「どのような内容が前にあるはずか」「どのような内容が後に続くはずか」を考えて、それにあてはまる場所を探しましょう。この物語は雪乃の視点から描かれていますから、「(雪乃) が聞いたことのある」もので、「正直、よくわからない」と感じている言葉を探すこととなります。——線⑤の五行後の「偏見」がその内容に当てはまります。

2 齋藤孝『本当の「頭のよさ」ってなんだろう?』から出題しました。学校は何をするために行く場所、どのような力を身につけられる場所なのか、また、学校に行くのがつらいと感じたらどうすればよいか、という問題について考察した文章です。

問一 **B1** 理由 関係つけ

学校が必要である理由について、本文では複数の内容が語られています。設問では「筆者が最も重要だと考えていること」とについて問われていますから、筆者がそのような表現をしているところを意識して探しましょう。——線⑦の七行後に「それが学校に行くことのメリット、いちばん大きな意味

です」という表現があります。「それ」の指す内容は直前の文にあります。

問二 **A2** 知識 比較

ここでの「傾く」は「物理的に、どちらか一方の方向へなめになる」という意味ではなく、「勢いがおとろえる」という意味です。したがって、エが正解となります。特に会社や店の経営に関してよく使われます。

問三 **B1** 具体化

——線③と同じ文の中に「日本の社会のあり方として」という表現があることをおさえておきましょう。現在の日本の社会について述べられているのは——線①に続く部分です。この部分から「学歴を重視する」ことがくわしく説明された表現を探しましょう。

問四 **B1** 具体化 比較

——線④「現実」は直後で「現実の壁」とも書かれています。社会の中で生きやすくなるためには学歴を得ることが事実上必要であり、そうでない場合は相当な苦勞が予想されるという内容がこれに当たります。設問では「適当でないもの」を選ぶよう指示されていることに注意しましょう。

問五 **A2** 関係つけ 知識

それぞれ次のことが入ります。
1 直前には、働いてお金をかせようとすると現実に直面するという内容のことが書かれています。これに対して直後

には、その具体例として高校を中退して仕事を探そうとする場合のことが書かれています。したがって、エ「たとえば」が入ります。

2 直前には、脳の中の前頭前野という部分はいちばん最後に成熟し、これが脳のほかの部分とうまくつながると、感情の高まりがコントロールされるという内容が書かれています。直後には、「脳のなかで衝動を抑える機能が整うのは、いちばん最後になる」と書かれています。表現は多少異なっていますが、述べられている内容はほぼ同じです。したがって、ウ「つまり」が入ります。

3 直前には本来望ましいと考えられる社会の内容が書かれています。これに対して直後には現在望ましい状態ではなく、「ますますコミュニケーション能力が要求される社会になっている」ことが書かれています。したがって、イ「しかし」が入ります。

問六

B1 関係つけ 比較

⑤の直後に「十分可能」とありますから、やり直しをするうえでどのような方法が可能になるのかを考えましょう。一度高校を中退した後でのやり直しについて説明している部分ですから、それまでのやり方とは異なるやり方で高卒資格を取るという意味でウが正解となります。ア「同じやり方」、イ「自分にしかできない方法」、エ「すべてゼロにして」は当てはまりません。

問七

B1 具体化 比較

筆者はこの表現で10代の脳が未完成であるという事実だけ

を述べたいのではなく、脳が未完成で、感情の抑制がききにくいからこそ「一時的な感情で暴走してしまうようなこと」を避けてほしいというメッセージを読者に対して送っています。したがって、ウが正解となります。ア「大人に判断を委ねるのは良くない」、イ「たいてい間違っている」、エ「その後の人生を決めてしまう」がそれぞれ誤っています。

問八

B1 具体化 比較

適当なものを二つ選ぶという条件に注意を向けおきましょう。筆者が学校で学べると主張している内容と合う選択肢を検討していきます。基本的には学校という「小さな社会」で自分とは異なる他者と交流することが大切だと述べられています。したがってイの内容は誤っています。また、どうにもならない場合には逃げて良いと書かれていることから、ウの内容も正しくありません。アは（中略）直前の内容、エは（中略）直後の内容とそれぞれ合っています。

問九

B1 関係つけ

⑧の直前の「きみたちの課題」、直後の「いかに乗るか」と対応させて考えましょう。学校に通う年齢の人たちが課題として向き合わなければならないことで、「乗るきる」という表現と対応する内容を探します。⑧の二十四行後に「いまのしんどさがずっと続くわけではないのです」とあり、ここが、「乗るきる」必要のある「課題」だとわかります。

問十

B 1 抽象化 比較

本文の内容と合っているものを選ぶ問題です。本文に書かれたことと選択肢の内容がどのように重なっているかを意識して、いねいに読み比べ、正誤を判定していきましょう。ア「以前より学歴偏重傾向「へんじゅうけいじょう」は強くなっている」、イ「資格が取れなくなってしまう」、エ「すぐに」がそれぞれ誤っています。また、ウの内容は《 2 》に続く部分で述べられている内容と合っています。

3

A 1 知識

故事成語の意味を問う問題です。言葉と意味だけを対応させて覚えるのではなく、どのような場面で使う言葉なのかということも合わせて覚えておきましょう。

4

A 1 知識

文脈に合わせて外来語を選ぶ問題です。「ト」で終わる形の外来語を出題しました。それぞれ、日本語に直すところのよきな表現になるかということに合わせて覚えておきましょう。